



セーフコミュニティとは

セーフコミュニティ(SC)とは、WHO(世界保健機関)が推奨する「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という理念に基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体が協働で進める安全安心なまちづくりの取り組みです。

亀岡市では、市内で発生しているけがや事故の現状及び課題などから、自殺対策、高齢者の安全、交通安全、防犯対策、余暇・スポーツの安全、乳幼児の安全、学校の安全の7つの対策委員会を設置し、市民の皆さんとともに安全・安心なまちづくりを進めています。

ドライブレコーダーで事件解決！

亀岡市ドライブレコーダーによるまちの見守り協定

平成 28 年 5 月、6 月に亀岡市内において痴漢事件が連続して発生していましたが、「亀岡市ドライブレコーダーによるまちの見守り協定」に基づき、京阪京都交通(株)のバスに搭載されるドライブレコーダーの映像が亀岡警察署に提供され、事件解決の決め手となり、犯人が検挙されました。

9 月 8 日には、亀岡警察署長から京阪京都交通(株)に感謝状が贈呈されました。



新たにセーフコミュニティ認証を目指す泉大津市を訪問

セーフコミュニティ認証現地審査を各対策委員会が視察

8 月 9 日、10 日に泉大津市で「セーフコミュニティ認証現地審査」が行われ、亀岡市の各対策委員会委員が視察に伺いました。

泉大津市での取り組みは、審査員からは「非常に分かりやすく、地域と行政の連携が取れている」と高評価であり、亀岡市にとっても非常に参考になるものでした。

今後、対策委員会の連携など、より取り組みを活発化させていただきます。



「ゲートキーパーステップアップ研修」

死にたい気持ちを抱える人との接し方

8 月 19 日、亀岡市役所市民ホールで「セーフコミュニティかめおか自殺対策委員会」主催の「ゲートキーパーステップアップ研修」が開催されました。

講師として、京都府精神保健福祉総合センターの土田英人所長を招き、「死にたい気持ちを抱える人との接し方」をテーマに、医師として全力で患者と向き合っている現場の状況を率直にお話しいただきました。

研修会に参加した民生委員や福祉関係者からは、「学んだことを日常の相談業務に活かしていきたい」などの感想が寄せられました。



自殺予防の十箇条 (こんなサインがあったら相談へ)

- ① うつ病の症状に気を付ける
- ② 原因不明の身体の不調が長引く
- ③ 酒量が増す
- ④ 安全や健康が保てない
- ⑤ 仕事の負担が急に増える、大きな失敗をする、職を失う
- ⑥ 職場や家庭でサポートを得られない
- ⑦ 本人にとって価値あるものを失う
- ⑧ 重症の身体の病気にかかる
- ⑨ 自殺を口にする
- ⑩ 自殺未遂に及ぶ



相談窓口

京都府自殺ストップセンター TEL: 0570-783-797
 京都府南丹保健所 TEL: 0771-62-0361
 亀岡市地域福祉課 TEL: 0771-25-5029

「セーフコミュニティ応援隊」を発足

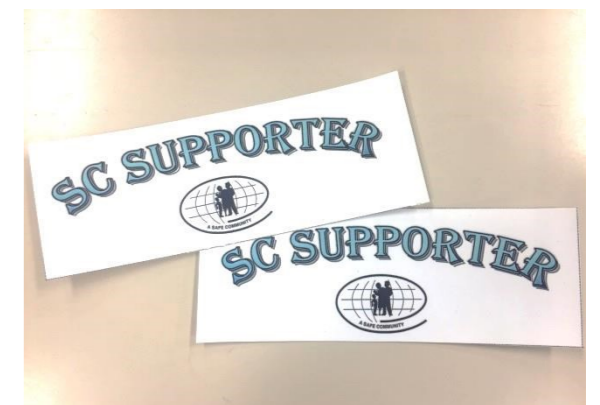
セーフコミュニティの情報を拡げてください



受付フォーム

亀岡市セーフコミュニティ推進協議会では、「亀岡市セーフコミュニティアンケート」を実施した際に、セーフコミュニティ活動を応援していただく「セーフコミュニティ応援隊」を募集したところ、約 50 名の方に応募いただきました。ありがとうございました。

現在も随時募集中です。希望される方は、下記連絡先もしくは右上 QR コードから登録してください。希望された方に対しては、「セーフコミュニティニュース」などを送らせていただきます。



インターナショナルセーフスクール

安全で安心な学校・保育所・保育園づくり

セーフスクールとは

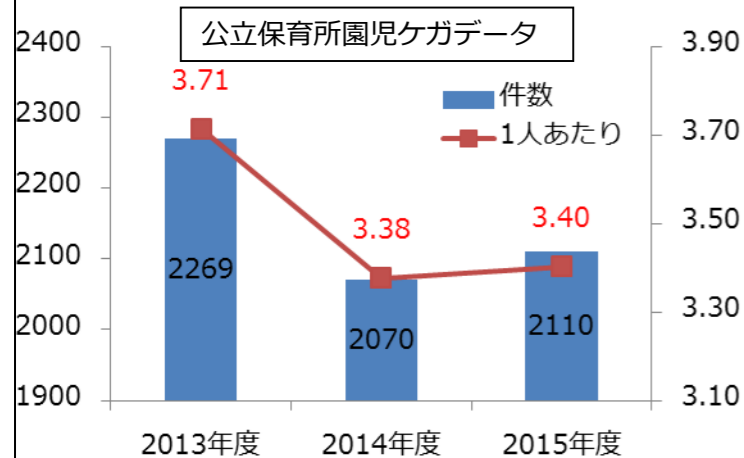
体と心のケガやその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全な学校や保育所づくりを進める活動がインターナショナル・セーフスクール(ISS)です。

亀岡市立曾我部小学校、社会福祉法人倣裏会亀岡あゆみ保育園、亀岡市立保育所8カ所(本梅、東本梅、川東、中部、東部、第六、別院、保津)がISS認証を取得し、現在も取り組みを進めています。

ISS認証を取得して、1年が経過しました！

現在までの取り組み成果の一部を紹介します

公立保育所（8保育所）



セーフスクールの取り組み宣言をした2013年度から2015年度まで取り組みを継続してきた結果、公立保育所(8保育所)の園児のケガ数は、2015年度は2013年度と比べて**7%の減少**となりました。

川東保育所の約束まもるんじゃー(毎日実施)



日常化

第六保育所の新安全教育プログラム



改善

保育所と幼稚園合同アレルギー対応研修会

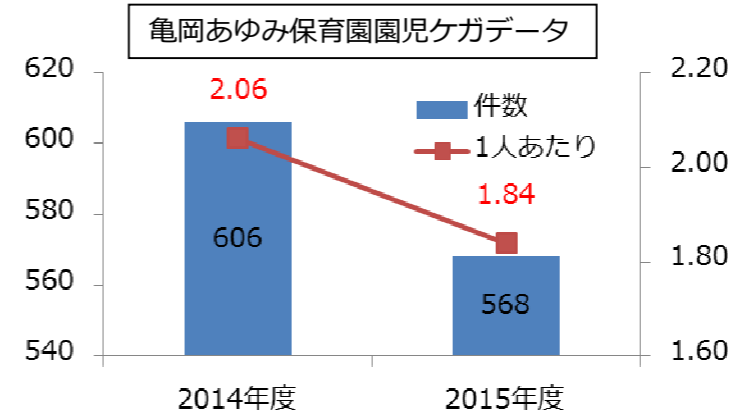


連携拡大

子どもたちと一緒に取り組んでいる活動は様々な工夫で日常化し、安全を考える環境が定着しています。保護者アンケートからも、子どもたちが変わったと感じている保護者が増えています。

また保育士もデータ等を見直し、取り組みを整理・改善するなど、ISSの手法を日常の保育に取り入れています。地域や保護者との連携、保育所同士や幼稚園の連携も進んでいます。

亀岡あゆみ保育園



亀岡あゆみ保育園では、データを本格的に取り出した2014年度から2015年度の園児のケガ件数は、**11%の減少**となりました。ケガの総数も、園児1人あたりのケガ件数も大幅に減少しており、大きく取り組みの成果が出ています。

保護者への交通安全指導



活動領域拡大

交通安全教室



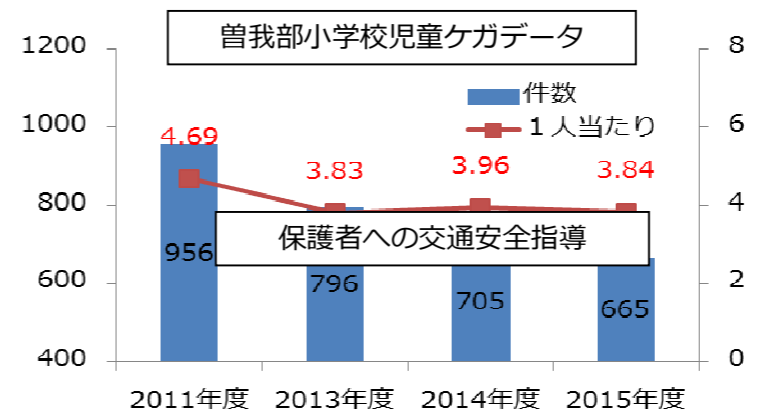
行動の測定

認証取得後、保育園だけでなく、保育室から自宅の玄関までを活動領域に定め、より保護者と一体となった取り組みに発展しています。

また行動がどう変わったかを測定し、園児や保護者に啓発をしています。交通

安全教室の後、園児の歩道でのルール順守度は90%から98%に上がり、横断歩道では86%から98%に上がりました。

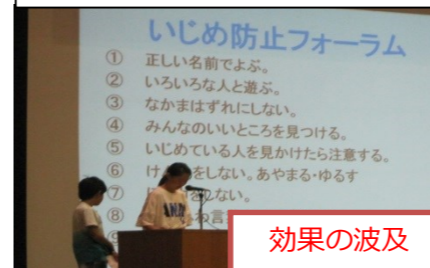
曾我部小学校



曾我部小学校では、2011年度に比べて、取り組みを始めた2013年度に児童のケガ件数が**17%減少**し、児童1人あたりのケガ件数も大きく減少しました。

その後もケガ件数は減少しており、1人あたりの件数も落ち着いた状況が続いています。

亀岡市のいじめ防止フォーラム



効果の波及

企業による交通安全指導



連携拡大

曾我部小学校では、いじめ防止に力を入れ、「いじめ防止フォーラム」を開催していますが、その取り組みが亀岡市の取り組みとして全市的に開催され、取り組み効果が波及しています。

また取り組みを支援する新たな連携先も増え、企業と連携した交通教室などを展開しています。